

JMSJの電子化における数式

戸瀬 信之

(日本数学会、慶應義塾)

内容

- 日本数学会における文献電子化
- Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ) の電子化
- JMSJの電子化における数式

日本数学会における文献電子化

日本数学会の出版物

- 欧文誌 JMSJ
- 欧文誌 JJM
- 雑誌「数学」
- 会員誌「数学通信」(会報を含む)
- 会議報告集 ASPM
- Memoirs (欧文、和文)

電子化の取り組み

- 「社団法人 日本数学会 著作権に対する考え方」
(2005年9月)
 - 電子化を進めるにあたって権利関係の枠組みの原則を定めたもの
 - 個々の刊行物により状況が異なることを留保
 - 複製権、公衆送信権、翻訳権は非独占的に数学会が有する
 - 著者による著作物の2次利用を妨げない、電子媒体による公衆送信権も同様
 - (余談) JMSJのJournal@rchive による電子化のために

会議報告集ASPM

- 過去のもので絶版のものはスキャンをしてPDF化してある
- オンデマンドで出版する形式
- オープンアクセスは検討していない

会員誌「数学通信」

- 毎年1巻(4号)
- 著作権の規約を定めている
 - 「基本的な考え方」よりも著者が優位
 - リポジトリに関する規定もあり
 - いろいろな性格の著作物が混在(細かく規定)
- 会報部分、書評、アウトリーチの講演記録などを全て電子化
 - 学会web との一体化が完成
 - 公開していない部分あり(反対があった)
 - 今後は、いろいろな形式の総目次を作っている予定
 - 書評の総目次は完成済み

和文誌「数学」

- Journal@rchive により電子化の予定
 - 年代により構成が異なる
 - 「通信」ほどではないが、性格の違う著作物の混在
 - ラップする形のインターフェースを構築する必要があるのではないか
 - JDML でメタデータを入れていくのもいいのでは
- カレントを電子化するかどうかは議論が進んでいない

JJM

- 1924年創刊
- 2006年から第3シリーズとしてReview誌となる
 - Springer と共同で刊行
- 第1シリーズ、第2シリーズはJournal@rchive により電子化の予定

JMSJの電子化

- Journal@rchive による電子化
 - 創刊号から57巻(2005年)まで
 - 5年経過の巻からOAの原則により54巻まで無料公開
- Euclid Project による公開
 - 51巻(1999)以降が掲載されている
 - 5年経過の巻はOAとしている
 - 会員には個人のIDを付与
- J-Stage
 - 59巻4号、60巻1号、2号
 - 日本の機関購読者に対して公開

この枠組みにいたるまで

- まず Journal@rchive に通る
- カレントをどうするか
 - Euclid OR 商業誌
 - J-Stageにも掲載することにしたのは、J-Stageの環境改善に関する発言権を得るため
 - J-Stageに入っている雑誌の支援

具体的な作業(J@rchive)

- Abstract は51巻からつけていた
- TEX の使用は57巻から
 - Journal@rchive には51巻から56巻のabstract をtex 形式にして提供
- PDFは51巻から学会が持っていた
 - これをJournal@rchive に提供
- それ以外はJSTがスキャンして作成
- Reference も含んでいる

具体的な作業(Euclid)

- 57巻から59巻3号まで
 - 手持ちのtex source とPDFで電子化
 - Abstract のMathML は黒田拓氏によるRubyの
スクリプトを使用して作成
- 59巻4号から印刷所による電子化作業
 - PDFにはしおり、リンクが入っている
- 51巻から56巻はデジタルノーツによる作業
 - PDFにしおり、リンクが入っている

In Press の論文の公開

- In Press の状態の論文の最終原稿PDFを数学会のwebpage で公開を始めている

今後の課題

- Euclidにある各論文にReference を加える
 - MRやZb のリンク
- Euclidに全ての号を入れて、DOI番号を付与
 - MRからのリンクのためには必須
 - PDFに付加価値をつける
- メタデータの確認作業

JMSJの電子化における数式

- Journal@rchive+J-Stage
 - Abstract などのメタデータをHTML で可能なかぎり表現、不可能なものはTEX形式
- Euclid Project
 - Abstract をMathML 形式で掲載
 - 一部の号ではタイトルもできるかぎりMathMLで